

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4370800502 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 愛隣園 | | |
| 事業所名 | 愛隣の家グループホーム | | |
| 所在地 | 熊本県山鹿市津留2025-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年2月22日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年5月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5 |
| 訪問調査日 | 令和5年3月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

県北の自然豊かな地に位置し、関連施設が多数隣接。近くに公園がある環境と木造で温もりがあり、まるで本当の家の様な雰囲気を感じる建物である。理念である「ゆっくり笑顔であるがまま 楽しくみんなとつながろう」の実現のために、地域との交流を大切にし、本人らしく、入居者と家族との関わりを大切にできる生活を目指しています。職員においては年齢層は幅広く、個々の得手不得手を生かしたバランスの取れたチームワークが魅力の一つである。コロナ禍のなかでも、全職員が笑顔で明るいサービスの提供と質の向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は、ホームの目につきやすいところに掲示したり、運営推進会議の資料にも毎回記載して周知を図っている。忙しい時ほど「ゆっくりいこう」と声を掛け、入居者のペースや意向に沿ったケアを心がけている。プライバシーに配慮し、入居者の話は名前ではなく部屋番号で話したり、排泄の誘導の際大きな声を出さないように、聞こえにくい方には「トイレに行きませんか」と書かれたカードを作って示すなどの工夫も見られた。食堂からトイレへの動線には、手すりや手すり代わりの椅子を配置したり、ベッドから降り易いように手すり代わりの椅子をベッド横に置くなどの安全への配慮が伺えた。食事は、旬の野菜を多く取り入れた、彩りの良い美味しい食事が提供されており、当日は午後から庭に出てみんなで楽しくおやつを食べる光景が見られ、穏やかな日常が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「ゆっくり笑顔であるがまま 楽しくみんなとつながろう」を職員でつくり、玄関・台所・職員トイレ等に掲示、朝礼や話し合いにて共有、この理念を元に全職員が常に意識し行動、実践につなげている | 理念はホームの目につきやすいところに掲示したり、運営推進会議の資料にも毎回記載して周知を図っている。忙しい時ほど、ミーティングやスタッフ会議で「ゆっくりいこう」と一息入れる言葉を掛け、理念を再確認してケアにあたっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年も、残念ながらコロナ禍のため、地域の三岳文化祭に作品掲示のみ協力している。出品した作品は、入居者が主となり作品作りに関わってもらい、達成感を共有し、作品を通じて四季折々の季節を感じてもらうことができた。アイデア豊かな作品に、地域の方々には多くの興味を持っていただくことができた。その他の地域行事には参加していないが、コロナ終息後は参加を楽しみにしています。 | コロナ禍以前は、法人の夏祭り、地域の三岳文化祭、敬老会等で地域の方との交流が行われていた。現在は、三岳文化祭にみんなで作った季節の貼り絵等の作品を出展することで、地域とつながっている。家族の面会時には一緒にホーム周辺を散歩したり、誕生日には家族と外食に出かける予定の方もおり、少しずつ解禁しているところである。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 「介護なんでも相談所」を設置、誰でも気軽に相談できるように、看板を立てている。又、コロナ禍前までは、「地域を歩いてみよう」に職員・入居者参加し、地域の人々に貢献できる場所となっていた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ感染状況を見て、減少している期間に二度開催し、委員の方から貴重な意見を聞かせていただくことができた。感染症対策として、資料及び質問や意見用の用紙と返信用の封筒同封し郵送した。コロナ禍の生活や感染症対策の様子を報告し、認知症への理解を深めサービス向上につなげている。 | 運営推進会議は、今年度は2度対面での会議を開催し、他は資料を委員に郵送しての書面会議となっている。会議資料の表紙に必ず理念を記載し、周知に努めている。また、資料に関しての意見・質問等を記入・返信してもらうよう、用紙と返信用封筒を同封している。新年度5月の会議は対面を予定しており、グループホームをアピールし、委員(地域)とのつながりを強くしていきたいと考えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 令和4年10月に実地指導があり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝える事ができた。運営推進会議開催時には、会議が行えない場合にも資料作成し、各関係者様へ連絡を取り資料送付し、継続的なつながりを保てるようにした。 | 市からの情報や研修のお知らせなどは、メールで伝えられている。市担当者とは、運営上の不明な点など、その都度電話で話したり、提出物を持参した際に相談しており、連携が図られている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | コロナ禍前までは、隣接施設との合同の身体拘束廃止委員会に参加することにより理解や意識を高めていた。スタッフ会議で議題にあげ、身体拘束に対する理解を深め、短時間でも身体拘束しないケアについて話し合い、実践しケアへとつなげている。また、感染予防のため、外出を控えたが、ストレスが溜まらないようにホーム内の行事に工夫をしたり、日光浴を行っている。 | 身体拘束廃止委員会の委員を中心に、スタッフ会議やミーティングで身体拘束廃止について勉強会を行い理解を深めている。忙しい時には言葉が荒くなってしまう場面も見られ、スピーチロックにあたる言葉や置き換えの言葉などについて話し合い、言葉掛けについてみんなで意識するよう心掛けている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全職員が虐待防止に関心を持ち、理解や意識を高めるようスタッフ会議等で話題にあげ意見交換を行い、互いの意識向上につなげている。職員間のコミュニケーションもよく取れており、日々の業務の中においても些細なことであっても意見交換し、情報共有している。又、コロナ禍前は定期的開催されていた委員会に参加し、全職員に回覧・報告を行っていたが、現在は身体拘束について話し合う時間を短時間であるが設けている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は家族より相談受け、助言や協力などの支援している。職員は学ぶ機会があり、情報の共有もできている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行い、不安や疑問を必ず尋ね、理解・納得を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の言葉や態度から要望を聞き、察する努力や言いやすい働きかけにて運営に活かしている。コロナ禍の為、家族には電話で話し合いの機会を設けている(管理者、担当)。全家族に電話で、面会制限の説明及び協力を得られ、家族の気持ちも知る良い機会となった。ホーム内での写真を各家族に送り、日常生活の様子を伝える事ができた。家族会の延期で、直接的に接触する機会は減ってはいるが、制限ある中でも、利用者やご家族のご意見・ご要望に耳を傾け、お気持ちに寄り添えるよう努めた。 | 家族が面会に来られた際や、電話で近況報告を行い、意見・要望等を尋ねているが、意見等はほとんど聞かれていない。また、日常の写真を送って家族の安心に繋げている。以前は定期的に家族会も行っていたが、コロナ禍で中止となっており、感染状況等見ながら早期に再開したいと考えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は、職員に対し、意見や気づきを言えるように働きかけ、すぐに反映させている。運営者は、日頃の報告・相談にて、職員の意見を反映している。コロナ禍前に行っていたスタッフ会議を再開し、職員の気づきやアイデアの提案、ケアの手順の統一の再確認などを毎日のミーティングで行っている | 日頃から、ケアのことや業務改善についてなど、気づきや意見・提案はその都度出し合っで話し合い、まずやってみることとしている。上手くいかないときは再度話し合っでやり直すなど、職員の意見を反映し、共有してケアにあたっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | コロナ禍の中でも柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努め、変更や工夫をすぐに行っている。職員がストレスをためないように、やる気の出せる職場環境や整備に常に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会は、コロナ禍の為中止となるものもあったが、オンライン研修などには積極的に参加するようにした。毎月の感染症拡大防止対策委員会参加及び報告は出来ている。ホーム内での短時間研修会は開催し、質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 山鹿地域グループホームのグループラインで相談して、意見・情報交換している。また、隣接の看護師・介護職員・管理栄養士との交流もあり、質の向上につながっている | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 不安や要望を言いやすい働きかけや本人と向き合う姿勢を常に持ち、配慮や努力を全職員がしている。何気ないような発言や行動なども、昼夜問わず記録に残すなど、全職員が情報を共有することに重きを置いて、提供するサービスにばらつきがないように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービスを導入する段階で、家族等が困っていることや不安・要望等に耳を傾けながら、相談しやすい声かけや雰囲気作りを行い、家族との信頼関係作りに努力している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族との話し合いの中から、その時必要としている支援を共に考え、介護計画や環境作りを行なっている。入所前の段階から、管理者と担当介護者で訪問して必要な支援を見極めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の経験や知恵を言いやすい働きかけから、職員と共に暮して楽しむ場面を作り、共に暮らす関係を築けている。また、本人の人生を理解した上で、生活の中で本人が選択できる場面を作り、職員からの一方的なアプローチではなく、同じ目線で寄り添うことで信頼関係を築き、共に生活を考えるように全職員が接している。情報の共有もできている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と共に本人を支え合う関係を作り、電話や窓越し面会、アクリル板を用いた対面面会時に家族の絆の大切さが再認識できるように働きかけている。通院には、家族の協力もあり共に支え合っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 隣接の施設の馴染みの人とおしゃべりがしやすい環境。コロナ禍前は、地域の行事参加時には、必ず声かけてくださる方がおられ、馴染みの関係ができていた。コロナ禍により、外出を控えている。 | 以前は法人の夏祭りや地域のどんどやなどの行事に参加した際に知人と出会って話したり、併設特養やデイサービスに来られる知人に会いに行ったりしていたが、コロナ禍の現在は、家族の面会や電話での関係継続が主となっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の相性・要望を考え、食堂や居間での席を配慮。役割分担により利用者同士が支え合っている事を実感されている。又、孤立することが無いように職員が橋渡しになり、より良い関係づくりを支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設等に入所された方に会いに行き、関係を断ち切らないようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族から本人の人生の情報を把握し、本人の希望を聞き取りながら、本人本位の生活を検討している。又、要望の訴えない方には、顔の表情や行動、態度、家族からの情報をもとに本人の想いを検討している。職員同士、日々個々の想いを受取り、できる限りその想いを優先し、当日の予定を変更して柔軟に対応するなど、臨機応変に工夫をしている。 | 意向を言葉で伝えられない人は、表情や動作から推測し、気づきを職員で共有している。飲み物をなかなか飲まないときは、いろいろな種類のものを出してみたり、コーヒーには砂糖をいれてみたり、工夫して好みを探っている。入浴は基本的に午前中に行っているが、どうしても午後に入りたいという人は午後に変えたり、外を見たいという人がいたら急遽、庭で茶話会をしたり、予定を柔軟に変更して意向に沿った対応に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前の施設や家族からの情報だけでなく、入所後も窓越し面会、アクリル板越しの対面面会、電話での報告時に家族から生活歴を収集している。また、個々に「人生マップ」を作成し、入居者との会話で知り得た生活歴を書き込み、情報共有に活用している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活歴や本人の想いを踏まえ、個別の1日の過ごし方を把握している。又、少しの変化でも随時記入・共有・ミニカンファレンスの開催にて検討し、全職員で連携をとり、把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当制にて、家族との連絡時や状態報告時に意見や要望を聞き、全職員で検討し、介護計画を作成している。主治医の意見や職員のアイデアを反映している。窓越し面会、アクリル板を用いた対面面会時にも報告・意見交換している。コロナ禍の為、担当者会議は中止している。 | 入居時は前施設からの情報で暫定的な計画を作成し、1か月程度経過して生活が落ち着いてから課題を検討し、再度計画を作成している。モニタリングは、所長(ケアマネ)が担当から本人の状況を聞きながら行い、定期的及び随時に現状に即して計画の見直しを行っている。ADLが低下しないよう、また、支援することで出来るようになるような介護計画の作成を心掛けている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 本人の変化や状態がわりやすいように個別に記録し、情報を共有したり、気づきをすぐに記載し検討、実践や介護計画の見直しに活かしている。申し送りの時間の中でも議題にあげ、ミーティングを行うようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 愛隣園法人事業の多機能を活かした柔軟な支援や協力体制がある。コロナ禍前は、慰問や法人秋祭りなどは、地域の方の交流の場である。昔ながらの行事(大祓い、紀元節式典、花まつり、法話会など)や敬老の日には、お祝いの手作りお菓子が配られ喜ばれている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍前は、多数の施設が近隣にある関係で、保育園・踊り等の慰問や各行事は、ホームに必ず声かけの働きかけがあり、外出の支援ができていた。また、運営推進会議でも働きかけをしていた。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診を家族とホームとで協力して、受診介助、情報提供を行い、医師との連携にて、適切な医療を受けられるように体制を整えている。家族への連絡・報告も行っている。 | かかりつけ医は、本人・家族の了解を得て決定しており、定期受診に家族の同行が困難になった場合は訪問診療ができる協力医に変更している。現在はほとんどの方が協力医による月1～2回の訪問診療を受けている。特養の看護師と連携が図られており、適宜、相談して対応している。夜間はかかりつけ医の指示を得て対応し、適切な医療受診ができています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員が医師との連携のうえで、日常の健康管理や状態変化に応じた支援ができています。看護師不在だが、隣接の特養看護師に気軽に相談できています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は情報提供受け、経過記録記入。又、ダメージ防止のため居室にある馴染みの物を持っていったりしている。退院時は、スムーズにホームの生活環境に落ち着かれるよう、入院中の生活の様子を聞き取り、職員間で意見交換しケアにつなげている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に「事前指定書」にて、家族に重度化した場合の意向や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等、かかりつけ医とも話し合っている。全職員、方針の共有ができ、チームで取り組む体制が出来ている。重度化への対応は、その都度に全職員で検討し、見直している。 | 現在は看取りはしない方針であり、入居時にホームで出来ること・出来ないことを説明し、事前指定書で意向の確認をしている。重度化した際には家族の意向を再確認し、かかりつけ医と連携し、職員で方針を共有してケアに取り組んでいる。家族と密に連絡をとり、寄り添い、出来る限りのケアを行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時に備え、全職員がマニュアルを把握しており、コロナ禍前は隣接の特養の勉強会にも随時参加していた。又、救急救命の実技・講習参加もできていた。マニュアルは定期的に見直す機会を設けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 関連施設が多く、緊急時の協力体制あり。消防署来所にての火災訓練や緊急用ボタンで隣接施設からの協力体制及び訓練もできている。 体験をもとに、災害に備えマニュアル化している。食料品、消耗品は備蓄も兼ね適正在庫の管理ができています。 | 年2回、ホーム単独で避難訓練を実施しており、1度は消防署の立ち合いもあり、特養からの応援も得て行っている。緊急用ボタンが関連施設に配備され、ボタンが鳴ると当該施設に駆けつけることになっている。食料備蓄も確保しており、賞味期限を見ながらメニューに入れて消費し、新たに整備する取組も行っている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の自尊心を傷つけないように常に考え、声かけやケアを行っている。申し送り時は、名前でなく居室の番地を活用して配慮。排便は「お花」、排尿は「お水」に言い換えて、職員同士の情報共有及び配慮している。入居者の話を入居者の前でしない様心がけている。(他の方の事でも反応し、混乱されることがある為) | 排泄の誘導の際大きな声を出さないように、聞こえにくい方には「トイレに行きませんか」と書かれたカードを作って示して羞恥心に配慮している。トイレはドアの内側にカーテンを取り付けてあり、介助の際はドアの外で見守ったり、スタッフ同士で入居者の話をする際は名前ではなく部屋番号で話すなど、プライバシーの確保に留意している。また、それぞれがやりたい事やペースを大切に、心地よい空間を提供できるよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 選択肢を作り本人が選択しやすい場面作りや、日常生活の中で希望、関心、嗜好を言える働きかけをゆくりとした声かけで行っている。本人の反応や表情などで納得されているかを確認している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペース優先で、柔軟な対応を心がけている。コロナ前は、地域や関連施設での行事等も強制することなく本人の選択に任せていた。また、本人の希望を確認し、【その時に何を優先すべきか】を必ず頭の中に入れ実行。TVの時間に合わせ食事時間を個別に変更したり、毎日の日課が途切れることが無いよう、業務をずらしたり工夫したりしながら要望に沿えるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 散髪は、地域の理容室に来てもらっている。服装は、職員と共に選ぶ機会を作り支援。入浴後の化粧水やクリームの介助など細やかに配慮。「身だしなみ」をご自身でできるように、道具の置く場所の工夫や、持ち物の在庫管理を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の楽しみを重視、嗜好把握し、喜びある食事に努めている。好き嫌いの多い方への対応も出来ている。能力に応じ、場面作りを積極的に支援している。祝日や誕生会の献立には希望を聞きながら、変化をつけ、楽しんでもらっている。水分補給の時間においては、単純に牛乳を提供するだけでなく、個々の好みに合わせカフェオレや抹茶オレなど楽しみをもってもらえる様工夫している。入居者の方から食べたい物のリクエストがあれば、すぐに献立に反映し柔軟な対応ができています。 | 食事は、主として調理をする職員を中心にホームで調理しており、旬の野菜を多く取り入れた、彩りの良い美味しい食事が提供されている。キッチン内に入居者が野菜切りなどをするためのテーブルも準備されており、入居者も出来ることに応じて調理や後片付けなどに参加している。季節に合わせた行事食や、誕生日は本人の好物を提供したり、当日は午後のおやつを庭で楽しむ様子も見られた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士が中心となり、本人の希望を取り入れたバランスのとれた献立、確実な水分補給の支援。病気でも家庭的で満足できる工夫。本人の習慣を大切にし、食事摂取量のチェックと記録も行う。個人の嗜好を重視し、好き嫌いの多い方のために、常時代替を用意している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの能力に応じた支援を行っている。また、入れ歯洗浄(薬)も行っている。歯科医訪問(アセスメント作成)もあり、アドバイスを受けている。歯科医師より仕上げ磨きの大切さを教わり、毎食後仕上げ磨きのお手伝いをし、口内の観察にも努め、清潔を保つことを心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間ごとにさりげなくトイレへ声かけ・誘導。陰部洗浄や清拭も随時行っている。本人に合った排泄や昼夜の排泄介助についても話し合っている。 メッセージカードを作成し、自立支援を促しADL維持の為に工夫をしている。 | 日中は、自分のタイミングでトイレに行く方の他は、それぞれの排泄パターンに応じてトイレに誘導している。食堂からトイレへの動線に、手すりや手すり代わりの椅子を置き、安全に移動できるよう配慮している。夜間は、トイレ・ポータブルトイレ使用の方やお部屋でパット交換をする方など、それぞれの状況に応じ対応している。それぞれに合った排泄用品についてミーティングで検討し、より快適な排泄支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜・キノコで便秘予防 又、水分補給と運動の働きかけの支援にて、自然排便を増やしている。主治医への相談も行なっている。テレビの体操(録画)を見て体操される場面作りも毎日できている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 回数や順番は、本人の希望に合わせている。しょうぶ湯やゆず湯など季節を味わい楽しめる支援や、リフト浴を導入したり、重度化に伴い職員2人介助で安心して入浴できる支援もできている。 入浴を好まれる方、そうでない方を考慮し入浴を行っている。回数にばらつきがない様、一目でわかるように一覧表を作成。入居者同士の相性も考慮しケアをしている。 | 入浴は週2~3回行っており、リフト浴の使用で全員浴槽に浸ることができる。入浴が好きな人もおり、ゆっくり入ってもらよう心掛けている。会話を大切に昔の話を引き出したり、皮膚の状態やADLの確認等もできる場ともなっている。季節に応じて菖蒲湯・ゆず湯なども楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人に合わせた就寝・起床。温湿度に注意し、加湿器や個人に合わせたエアコン・あんか・電気毛布・氷枕の使用が出来ている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋ファイルが、常時すぐに見れる場所にあり、全職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解。変更時は確実な申し送りを実践。症状変化時は、隣接の特養看護師や主治医に相談や報告。服薬は、個人能力に応じ介助し、確実な服薬のために声かけと確認ができている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人の生活歴や力を把握し、個別の楽しみ(買物・貼り絵・塗り絵・歌・散歩)にて張り合いのある生活につながる支援をしている。個別の嗜好品(お菓子や果物)がいつでも食べられる支援もしている。 台所での料理の手伝い、洗濯物たたみなど、生活延長上のお手伝いをさせていただくことで生きがいを感じてもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | コロナ禍前は、希望に合わせた外出や季節を感じる外出・関連施設での慰問・地域の行事等の外出支援が出来ていた。現在コロナ禍の為外出を控えている。コロナ終息後に外出することを楽しみにされており、ご家族も「終息後は外出を計画したい」と心待ちにされている。 面会時に施設周辺を一緒に散歩なされ、ご家族と入居者双方の気分転換・ストレス発散ができています。 | 日常的に日光浴や散歩、庭でお茶やおやつを楽しんでいる。コロナ禍で、季節の花見などの外出は控えていたが、今年はまずは桜の花見ドライブをしたいと計画している。今後は家族の協力を得て個別支援も行ないたいと考えている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全職員、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、本人の管理能力に応じ、個人の希望、及び、家族との話し合いをしている。自己管理やコロナ禍前は外出時の財布持参での買物支援をしていた。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 自由に電話をかけることができる。電話は2台設置により、使いやすい場所を利用してもらっている。遠方の家族から電話があり喜ばれている。 ご家族からのお手紙は見やすいように居室に貼ったり、目の不自由な方には読んでさしあげるなどしている。窓越し面会で携帯電話を用いて会話される時は面会が円滑に進むよう職員がサポートしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者と共に、季節に応じたホーム内の飾りつけをしている。必要に応じ、寒冷遮やすだれ・よしずを使用したり、テレビの音量や番組にも常に配慮し録画もしている。個人に合ったイスを使用。 コロナ禍でなかなか外出がかなわないでおられる環境の中でも、行事ごとの飾りつけを入居者と一緒に行うことで季節を感じてもらえている。 | 共用空間の壁には、皆で作った季節の貼り絵や習字の作品などが掲示されている。食堂には加湿器が数台置かれ、トイレへの動線には歩きやすいよう手すりや手すり代わりの椅子が配置され、安全への配慮が見られた。庭に面したリビングでは、皆で春の花の貼り絵を制作しており、午後からは庭に出ておやつを食べるなど、楽しく穏やかな日常が伺えた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂・2つの居間にて、ソファ・数種類のイスが随所に置いてあり、自由に選んで過せる場所に配慮。また、入居者同士の相性も考慮。1人でゆっくりとテレビを見たい方への配慮もできている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の協力あり、使い慣れた家具、イス、毛布類、テレビ等や家族写真を自宅より持参。各行事での贈り物を本人居室に飾ってもらい、毎日見ておられる方もいる。 | 居室には大きな収納と洗面台が設置してある。習字の作品や家族写真を飾ったり、テレビ・衣装ケース・椅子・ソファ・ポータブルトイレなど、馴染みの物や必要な物を持ち込み、配置している。ベッドから降り易いように手すり代わりの椅子をベッド横に置いたり、電気の点灯・消灯をしやすいように長い紐をつけたりと、生活し易いための工夫が見られた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室は番地と名札を掲げている。基本バリアフリーで安全に配慮した作りの中、個人の能力をみて、できるだけ自立した生活がおくれるように手すりを増やしたり、トイレトーパーを下げの位置、ゴミ箱の位置など、職員が入居者の行動を観察することで、自立を妨げることなくスムーズな介助につなげることができている。 | | |